

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月15日現在

機関番号：32685

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730506

研究課題名（和文）人は「好ましさの学習」に対して無力か

研究課題名（英文） Self-control method of attitude-formation process on evaluative conditioning.

研究代表者

林 幹也 (HAYASHI MIKIYA)

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号：80435081

研究成果の概要（和文）：

実験参加者に対して、新奇な画像と、ポジティブあるいはネガティブな情動価を有した画像を同時に呈示する手続きを反復すると、新奇な画像に対する態度が形成される。この手続きを評価的条件づけと呼ぶ。本研究では、この手続きに晒される人が、この手続きによって生じる潜在的態度形成を自己制御できるか検討した。実験において参加者は、呈示刺激と逆の情動価を持つ語を発声したり、注意を意図的に逸らしたり、ペアとして呈示される刺激に対して「いいえ」と発声するなどの抵抗を行った。これらの中では、対象への注意を制御する方略が有効であり、これにより参加者は、態度形成を自己制御できることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

Evaluative conditioning (EC) refers to the change that individuals' evaluation of initially neutral stimuli (conditioned stimuli, CSs) undergoes following their exposure to repeated pairings of those neutral stimuli with evaluatively positive or negative stimuli (unconditioned stimuli, USs). For example, if evaluatively positive pictures are repeatedly presented briefly after the presentation of a novel nonsense shape, EC predicts that, eventually, the nonsense shape will be evaluated more positively. Therefore, EC has been regarded as one of the principles of attitude formation. The present study investigated whether participants exposed to paired presentations of CSs and USs could control their own attitudes towards CSs. In the experiments, participants tried to pronounce words contrary to USs, tried to control their attention, and tried to pronounce "No" to presented stimuli. The present study found that self-control of attention was effective to control attitudes toward CSs.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	300,000	90,000	390,000
2010年度	100,000	30,000	130,000
2011年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	600,000	180,000	780,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：態度・信念、社会的認知・感情、評価的条件づけ

1. 研究開始当初の背景

実験参加者に対して、新奇あるいは強い情動価を持たない視覚刺激（態度対象あるいは条件刺激）を呈示し、その直後あるいはそれと同時に、ポジティブ（あるいはネガティブ）な情動価を有する視覚刺激（無条件刺激）を呈示するといった対呈示手続きを繰り返すと、参加者は、条件刺激をよりポジティブ（あるいはネガティブ）であると評価するようになる。この手続きは評価的条件づけと呼ばれており、社会心理学領域においては宣伝・広告の効果を説明するための原理として理解されている。

2. 研究の目的

人々は、日常生活において、主にメディアを通じて膨大な数の宣伝・広告に触れ、膨大な数の対呈示にさらされている。これらの影響力によって様々な対象に対する潜在的・顕在的態度が形成されていると考えられる。では人々は、これらの対呈示に対して、受動的で無力な存在なのだろうか。本研究では、対呈示にさらされる参加者が、様々な意識的抵抗を行うことによって、対呈示が潜在的態度形成に与える影響を制御できるかを明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

以下の3つの研究を行った。いずれも心理学実験室での個別実験形式の実験であった。(1) 参加者に対して、無意味図形と情動語を対呈示する学習を行い、その後、無意味図形に対する潜在的態度を測定する情動的プライミング課題を行い、情動語の対呈示によって無意味図形への潜在的態度が変容したかを調べた。

(2) (1)と同様の刺激を利用し、語を利用した抵抗の効果を調べた。ここでは、参加者は、前項目と同様の無意味図形-情動語の対呈示にさらされるが、参加者は、情動語を見た瞬間に、その語と逆の意味を持つ語（反意語）を考え、発声しなければならなかった。この課題の後、無意味図形への潜在的態度を測定した。

(3) (1)と同様の刺激を利用し、「いいえ」と発声することによる抵抗の効果を調べた。ここでは、参加者は、前項目と同様の無意味図形-情動語の対呈示にさらされるが、参加者は、ある組み合わせの対呈示を認知した瞬間に、大きな声で「いいえ」あるいは「はい」と発声しなければならなかった。この課題の後、無意味図形への潜在的態度を測定した。

間、大きな声で「いいえ」あるいは「はい」と発声しなければならなかった。この課題の後、無意味図形への潜在的態度を測定した。

(4) (1)と同様の刺激を利用し、特定の種類の刺激のみに意図的に注意を行う課題により、潜在的態度形成を制御できるか調べた。この課題では、ある無意味図形の直後にポジティブ画像とネガティブ画像が等確率で呈示された。参加者は、ポジティブ画像とネガティブ画像のいずれか一方に対してのみ、手元のキーを押す課題に従事した。この課題の後、無意味図形への潜在的態度を測定した。

4. 研究成果

まず(1)の結果、無意味図形と情動語によって潜在的態度形成が可能であることが示され、これにより、評価的条件づけが頑健な効果を持っていることが示された。

次に、(2)の反意語を発声することによる抵抗課題は、潜在的態度形成に対してほとんど影響力を持たないことが明らかになった。これは、対呈示に抵抗するに際して、思考による反駁があまり効果的ではないことを示している。

さらに、(3)の「いいえ」あるいは「はい」と発声することによる効果も、まったく影響力を持たないことが明らかになった。対呈示に対して肯定する、あるいは否定するといった言明は、対呈示に抵抗するに際して効果的ではなかった。

最後に、(4)の注意の操作は、潜在的態度形成に対して大きな影響力を持っていた。参加者が、対象である無意味図形に続いて、ポジティブ刺激に選択的注意を行った場合は、無意味図形に対する肯定的な潜在的態度が形成されたが、ネガティブ刺激に選択的注意を行った場合は、無意味図形に対する否定的な潜在的態度が形成された。

以上の成果をまとめると、思考や言語による反駁は潜在的態度形成に対して影響力を持たないが、自己の注意を操作することは、十分に強い影響力を持つということであった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕（計 1 件）

- ①林 幹也（2010）. 社会心理学における現在の態度研究とその展望 明星大学心理学年報, 29, 65-72.

〔学会発表〕（計 3 件）

- ①林 幹也（2010）. 評価的条件づけにおいて肯定・否定に関する“タグを付ける”処理の効果 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, p. 625. 大阪大学

- ②Hayashi, M. (2011). Role of intentional and selective information-seeking in learning likes and dislikes. *American Psychological Association 119th Annual Convention Program*, p.201. Washington DC.

- ③林 幹也（代表）（2011）. 肯定的・否定的事象を意識的に探索することによる潜在的態度形成 日本心理学会第 75 回発表論文集, p. 224. 日本大学

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 幹也 (Mikiya Hayashi)
明星大学人文学部 准教授
研究者番号：80435081

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし